

農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 令和2年 8月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://i-agri.net/Index/gate002>」

刈取り始めの目安となる日（出穂後、日平均気温の積算値が950℃に達する日）は、
平年よりやや早まることが予想されます。^{※8/21現在}

籾の黄化状況をよく観察し、刈取適期を十分見極めるとともに、ゆとりをもって収穫できるよう、早めの準備を心がけましょう。

- 品質低下を防止するため、完全落水は出穂後30～35日後としましょう。
- 刈取適期の目安は、黄化籾割合で80～90%です。
- コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- 籾の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。
- 異品種混入（コンタミ）対策を徹底しましょう。

1 生育状況

県全体の出穂期（盛期）は、8月6日（平年差+1日）となり、地帯別では北上川下流・東部は平年よりやや遅く（平年差+1日）、その他地域は平年並となりました（表1）。

表1 水稻の地帯別出穂時期（各農業改良普及センター調べ）

地帯名	出穂時期								
	本年（月/日）			平年（月/日）			平年差（日）		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	8/2	8/6	8/9	8/2	8/6	8/10	0	0	-1
北上川下流	8/2	8/6	8/10	8/2	8/5	8/9	0	+1	+1
東部	8/4	8/7	8/10	8/2	8/6	8/10	+2	+1	0
北部	8/4	8/6	8/10	8/3	8/6	8/10	+1	0	0
県全体	8/2	8/6	8/10	8/2	8/5	8/9	0	+1	+1

注1) 出穂した水田の割合が10%を始期、50%を盛期、90%を終期（市町村作付面積による加重平均）。

注2) 平年は、平成22年～令和元年の10カ年の平均値。

2 気象経過

出穂期の8月第1～第2半旬は、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並となりました。同第3～第4半旬は、日照時間が平年より多く、気温は最高・最低とも平年より高く推移しました（図1）。

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区気象台8月20日発表）において、平均気温は平年に比べ高い確率が70%と予想されています。

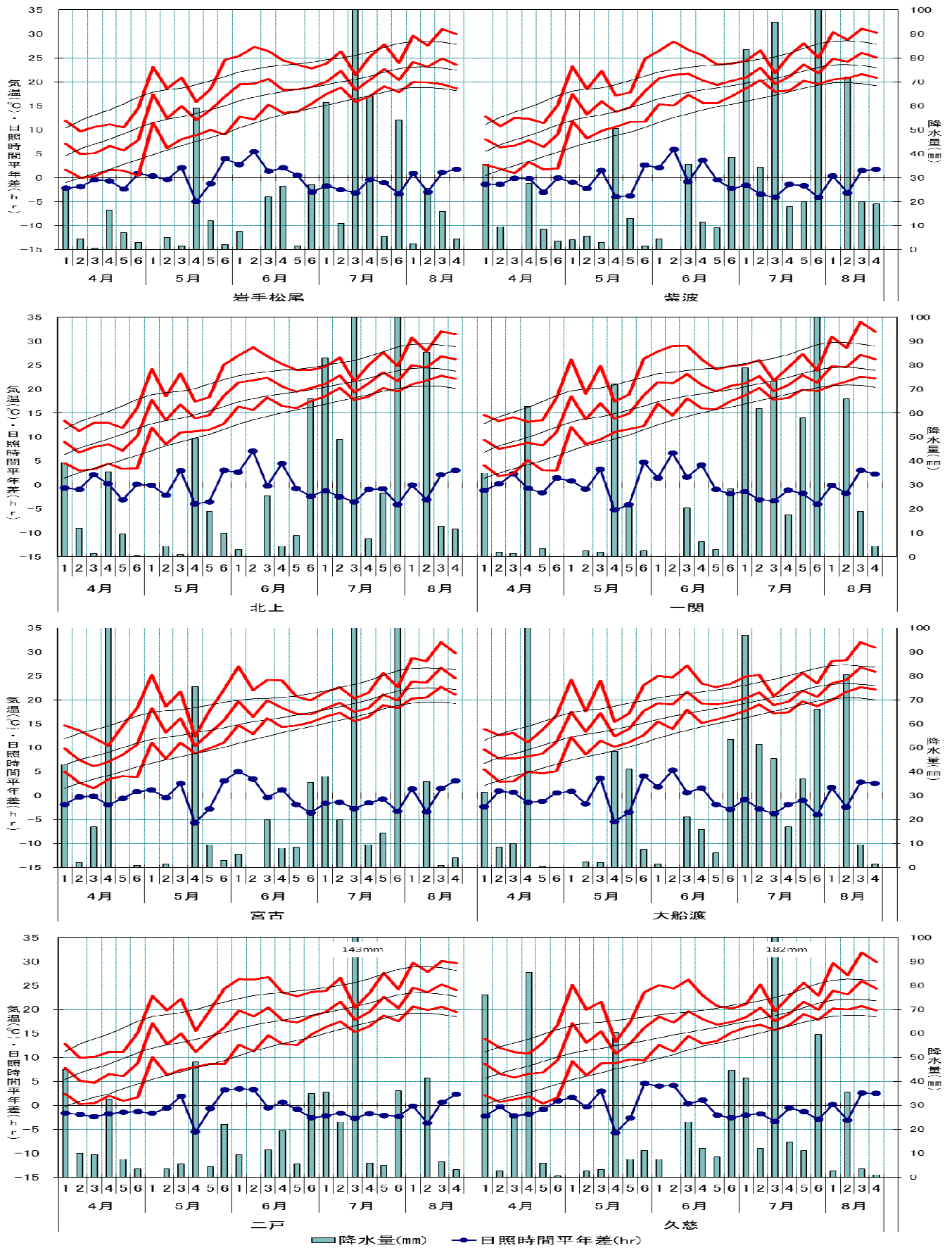


図1 半旬別気象経過図（4月第1半旬～8月第4半旬）
 （1段目：北上川上流域、2段目：北上川下流域、3段目：東部、4段目：北部）

3 玄米品質を低下させない水管理

(1) 登熟期の水管理

- ・ 間断かんがいを基本とし、徐々に落水期間を長くしていく管理とします。中干しが十分でない圃場は落水期間を長めにとり、機械収穫に必要な地耐力の確保に努めてください。
- ・ ただし、乾かしすぎ（白化・亀裂）は収量や品質低下につながることから、完全落水は排水不良田で出穂30～35日頃、排水のよい水田で出穂後35～40日頃を目安としてください。
- ・ 遅植えや直播栽培など、出穂が遅い圃場では、前述の落水の目安日より前に用水が利用できなくなる場合があります。水尻を上げておくなど、乾かし過ぎない管理に努めましょう。

(2) 台風や大雨時の水管理

- ・ 台風、大雨等で浸水や冠水の恐れがあるときは、水尻を開けて排水を促します。
- ・ 浸水や冠水した圃場では、速やかな排水に努めてください。長時間の冠水は登熟に悪影響をおよぼすので、少しでも早く排水し、水稻の葉先を出すことが重要です。
- ・ 台風通過後は、稲体が水分を失いやすいため、田面を急激に干さないよう、間断かんがいを行ってください。

4 適期刈取りの励行

(1) 刈取適期の予測

- ・ 出穂期は平年に比べやや遅くなりましたが、8月中旬が高温多照で推移しており、積算気温による予測では、今後、気温が平年並に推移した場合であっても成熟期はやや早まると見込まれます（図2、表3）。長期予報においても、当面、気温は高めに推移する予想であることから、稲穂をよく観察し、刈取適期を逃さないようにします。
- ・ 共同乾燥調製施設を利用する場合は、施設の稼働時期を確認のうえ刈取り計画をたててください。

表2 おもな品種の積算気温による刈取適期の目安

品種名	刈取適期の積算気温（℃）
ひとめぼれ	900～1,050
金色の風、銀河のしずく、どんぴしゃり、いわてっこ	950～1,050
あきたこまち	950～1,100
ヒメノモチ、もち美人	950～1,050
めんこもち	1,000～1,100

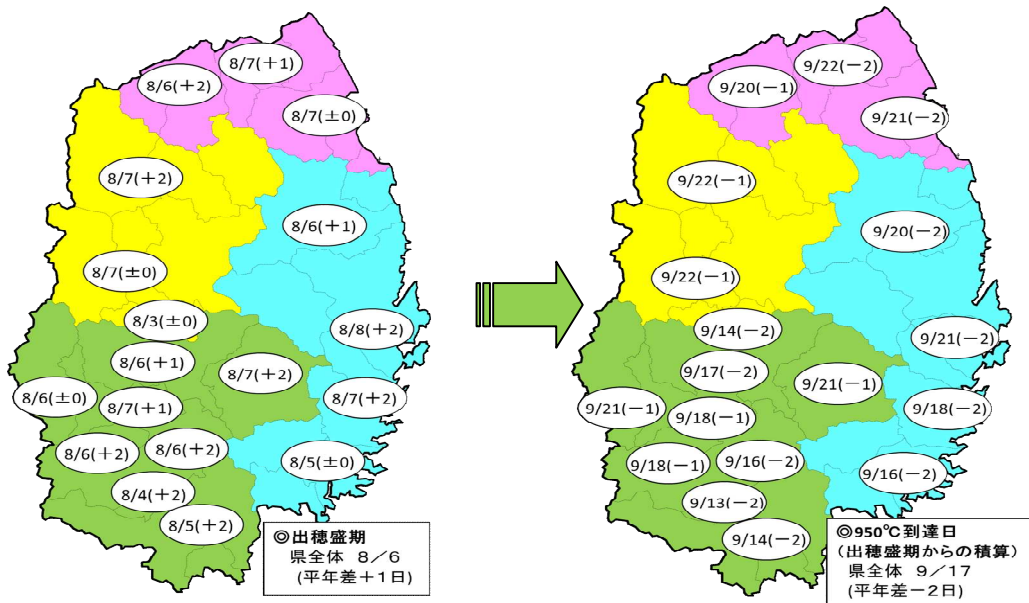


図2 各地域の出穂盛期及び、刈取り始めの目安（登熟積算気温950℃到達日）

- 1) 左側：各地域の出穂盛期（月/日）、右側：刈取り始めの目安（月/日）
括弧内の数字は平年との差を示す（+：平年より遅い、-：平年より早い）。
- 2) 登熟積算気温：各地域の代表アメダス地点の日平均気温について、出穂盛期の翌日から起算。
8月21日までは各地域の代表アメダスの現況値、8月22日以降は平年値を使用。

表3 各地域の出穂期と日平均積算気温950℃到達日の予測

地帯	出穂期 (月/日)						刈取り始めの目安(※) 日平均気温積算950℃到達(月/日)						使用 アメダス 地点	
	本年			平年差			本年			平年差				
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期		
北上川 上流	盛岡	8/2	8/7	8/11	0	0	0	9/15	9/22	9/28	-1	-1	0	雫石
	紫波	7/30	8/3	8/8	0	0	0	9/9	9/14	9/21	-2	-2	-2	紫波
	八幡平	8/4	8/7	8/10	3	2	2	9/18	9/22	9/27	-1	-1	-1	岩手松尾
北上川 下流	花巻	8/2	8/6	8/10	0	1	2	9/12	9/17	9/22	-2	-2	-2	花巻
	北上	8/3	8/7	8/12	0	1	1	9/12	9/18	9/25	-2	-1	-1	北上
	遠野	8/5	8/7	8/11	3	2	1	9/18	9/21	9/27	-1	-1	-1	遠野
	西和賀	8/4	8/6	8/10	1	0	1	9/18	9/21	9/27	-1	-1	-1	湯田
	奥州	8/2	8/6	8/10	2	2	2	9/11	9/16	9/22	-2	-2	-1	江刺
	金ヶ崎	8/3	8/6	8/11	3	2	3	9/14	9/18	9/25	-1	-1	-1	若柳
	一関	8/2	8/5	8/8	1	2	1	9/11	9/14	9/18	-1	-2	-2	一関
	平泉	8/1	8/4	8/7	1	2	2	9/10	9/13	9/17	-1	-2	-1	一関
東部	大船渡	8/2	8/5	8/13	1	0	2	9/12	9/16	9/27	-2	-2	-1	大船渡
	釜石	8/2	8/7	8/10	1	2	2	9/11	9/18	9/22	-3	-2	-2	釜石
	宮古	8/5	8/8	8/10	2	2	0	9/17	9/21	9/21	-3	-2	-5	宮古
	岩泉	8/5	8/6	8/9	3	1	0	9/19	9/20	9/24	-1	-2	-2	岩泉
北部	久慈	8/4	8/7	8/10	0	0	-1	9/17	9/21	9/25	-2	-2	-2	久慈
	二戸	8/2	8/6	8/9	1	2	1	9/14	9/20	9/24	-1	-1	-1	二戸
	軽米	8/4	8/7	8/11	1	1	1	9/18	9/22	9/29	-2	-2	-1	軽米
北上川上流	8/2	8/6	8/9	0	0	-1	9/14	9/20	9/26	-1	-1	0		
北上川下流	8/2	8/6	8/10	0	1	1	9/12	9/16	9/22	-2	-2	-2		
東 部	8/4	8/7	8/10	2	1	0	9/15	9/19	9/23	-2	-2	-2		
北 部	8/4	8/6	8/10	1	0	0	9/16	9/21	9/26	-2	-2	-1		
県 全 体	8/2	8/6	8/10	0	1	1	9/13	9/17	9/23	-2	-2	-2		

- 1) 始期：10%終了、盛期：50%終了、終期：90%終了した日
- 2) 平年：平成22年～令和元年。平年差の「-1」は平年より1日早く、「1」は平年より1日遅いことを示す。
- 3) 登熟積算気温：各地域の代表アメダス地点の日平均気温について、出穂盛期の翌日から起算。
8月21日までは各地域の代表アメダスの現況値、8月22日以降は平年値を使用。

(2) 刈取適期の判断

登熟積算気温が950℃に近づいたら、次の手順で判断します。

ア 黄化籾割合のチェック

平均的な大きさの穂を観察し、黄化した籾が1穂数に占める割合を確認します。
刈取適期は「黄化籾割合80～90%」（80～90%の籾が黄化、10%程度が緑色の状態：図3）です。

イ テスト籾すりによるチェック

黄化籾割合が80～90%に達したら、数穂を試しに籾すりしてみましょう。

積算気温による刈取適期の判断は、栽培法や日照時間によってズレがでる場合がありますので、実際の登熟状態を確認してください。



図3 籾の黄化割合と刈取適期判断の目安

(3) 収穫作業の留意点

ア 籾水分の確認

コンバイン収穫では、作業開始前に籾水分が20～25%にあることを確認して下さい。
また、収穫後の生籾は放置せず、速やかに乾燥調製施設へ搬入します。

イ 水田内で出穂のばらつきが大きい場合

1枚の圃場内で出穂のばらつきが見られ、水口付近などで登熟が大幅に遅れているような場所は、刈分けして品質低下を避けてください。

ウ 倒伏した場合

台風や大雨等により倒伏した場合は刈分けを行い、土が付着した籾や青未熟粒等の混入を避けてください。

5 乾燥・調製の留意点

仕上げ水分は15.0%以下を徹底！！

(1) 胴割れ粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。
これ以上乾燥速度を上げると胴割れ粒が発生しますので、急激な乾燥を避け、また過乾燥にならないよう注意が必要です。
- ・ 4%以上の水分差がある籾を一緒に張り込むことは避けます。
また、籾水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります（二段乾燥）。
- ・ 自然乾燥（ハセ・棒がけ）は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

(2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います。（肌ずれ米の防止）
- ・ ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品用は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上を目指します。

6 異品種混入の防止

産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米」であることが必須です。

異品種混入（コンタミ）が発生すると、品種名の表示ができなくなることに加え、産地全体のイメージダウンとなります。機械や施設の点検・清掃を徹底しましょう。

コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年の籾等が残留している可能性がありますので、これらの機械や施設の点検・清掃を十分に行い、異品種混入を未然に防止してください。

7 農作業安全

収穫時期は日没が早まり、例年農作業事故の発生が多くなります。余裕をもった作業計画を作成し、農作業安全に努めてください。また、作業機に反射シールを貼るなどして交通事故を防止してください。

次号は9月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。